

## 米朝会談後の外交戦略(チャーチルの靈言)(2018年6月15日靈示)担当:石田昭 2018年8月25日

- 1 金与正の靈言に見る北の激変を信じることの正否、第三者の意見を聞いてみる、が主旨。彼女が「開国」派だとしても「尊王攘夷派」がいるので、開国が頓挫する可能性もある。
- 2 灵言: トランプ(T)が正恩(J)に会って「戦争より話し合い」と判断したのは、意外に純朴な面を見たから、褒めてやれば従順になる、強く出れば反発してくるタイプと見た。
- 3 北の軍部を黙らせるのは難しい、Jが説得できない場合もありえる。与正氏が70年間の国民洗脳を逆洗脳ができるか否か不明。相当なテクニックが必要。日本は真相が見えていない。
- 4 米は中国に依頼しつつ北に加圧、北は急遽韓国と中国に駆け込み、中国は中華思想で鷹揚に対応。米国には勝てない、「負けを認めて、米と友好関係」という選択を北にも容認。
- 5 T氏はその三日後に中国製品に制裁をかけ、米中貿易戦争を開始。中国の解体を目指す。
- 6 北の人権問題から議論しないT氏の理由: マクロ的に非核化をやれば、後は全て米の思うようになる。非核化が済めば、Jがいつ死んでも構わない。初代・二代の靈的影響が心配? 民主化の過程でそれはなくなる。スターリン像と一緒に二人の巨大銅像はやがて倒される。
- 7 安倍氏(A)はT氏の実力が分かっていない。T氏の実力は私より上だろう。A氏の「私は騙されない」発言は言外に「T氏は騙されたが」と言っている。糺党首も同じだろう。
- 8 ヒットラー(H)を見抜けたのはチャーチルのみ。ケインズはHを褒めてさえいた。
- 9 米朝会談でT氏が手控えたのは、J氏の帰国後の暗殺を心配したから。フセインの時のように、交渉相手を亡くすと統治が難しい。これは、イランに対するメッセージでもある。
- 10 融和策が良いか、強攻策が良いかではなく、良い結果に繋がるかどうかの判断が大切。左翼の戦争反対の声が強くなると、やりにくくなるので、早めに締めにかかった。リベラルマスコミ・民主党・環境運動家・中国スパイなどとの戦い。カリフォルニアの大炎の原因: 河川水を消化に使えない。
- 11 A氏の発言が北の保守派(初代・二代路線)を刺激しないようにする必要がある。クーデターはJの独裁打倒と裏切り打倒の両面からの可能性がある。拉致問題の固執は保守を刺激。
- 12 拉致問題は時間が経ちすぎた。もっと早く主権国家として対処すべき。朝日などマスコミが北を正当化する情報(日帝の支配、従軍慰安婦)を流した、日本自身の責任もある。
- 13 韓国の文氏は北を援助、当面日本の存在感なし。国際的に日本が“一人ポッチ”になる可能性あり。中国は日本の孤立化を狙っている。慰安婦問題の司令塔は中共、米民主党にもCH工作
- 14 日本は英・ロと連携すべし。英国のEUからの孤立を援助、EUは元々強い日本に対抗するためのもの。領土は戦争でしか取り戻せない、二島返還で我慢し、ロシアと協調せよ。
- 15 与正氏が言うように「北の復興計画」を提示して、一気に片付ける大物政治家が要る。
- 16 ロシア・中国・北朝鮮・イラン・シリアを同盟させない戦略。それには独裁者をも利用するトランプ流が必要。今は「忍耐の時代」じゃなくて「判断の時代」の外交戦略が必要だ。
- 17 T氏は短期間で米の建て直しを計画している。その後は超大国になる可能性あり。米の行き過ぎを抑えるのは日本的な「和のパワー」「ソフトパワー」による補間関係が大事。
- 18 独裁者習近平の次の中国は「天下三分の計」、振り子は揺れるので「受け皿になる勢力」が内部から出てくる。西洋まで狙う今の姿勢は続かない。「内部的に自己崩壊」し始める。
- 19 中国の攻め方 仏教国に戻す。日本の靈的指導で、かつて仏教大国に、中国の自尊心も満たす。ソフトパワーを使う。アニメなど文化的なものに憧れがあるから。共産党の卑怯な国家運営が暴かれる。トランプ流経済革命を持ち込む。中国人は実利を求める。

日本の経済成長、日本式経営で“本物の繁栄”を見せる。 Jの悪魔性を消す使い方。